03 鈴木邸（雑忠分家）

P10 参照

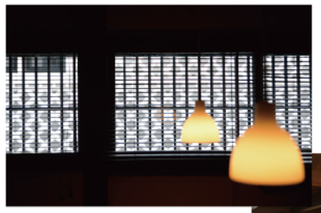
建築家と相談しながら快適性を重視。

今回取り上げた４件のうち、もっとも大規模な改装をしているのがこちら。空間の利便性や快適性を上げるために何度も建築家と検討を重ね計画を進めたそう。2 階の天井を抜いて空間を広く取ったり、蔵に居住空間をつくったり、劣化が著しかった中庭の茶室は保存を断念し、撤去することで中庭の空間を広げたり、創意工夫は色々な場所で見られました。

２階は天井を抜き、屋根組みを見せることで空間が広がり、木の風合いが強調される。

右／納戸を寝室に改装。上部の壁を抜き、隣の部屋とつなぐことで換気が容易に。下／２階屋根を見上げるとトップライト。暗い部屋に太陽光が入り、明かり取りに有効。

１階リビング。畳からフローリングに張り替えた。



左／１階ダイニングの窓から道向かいの雑忠（なまこ壁の家）を見る。下／１階は周りを見渡せるオープンキッチンに改装。

伊豆石を敷石として利用した駐車場。

中庭を新しくコンクリート壁で囲み、土面をコンクリート打ちすることでメンテナンスを楽にした。

市内フジ木工さんでリメイクした箪笥。

昔ながらの外観を残しつつ内観を改修した鈴木邸は「活用」のお手本だと感じました。母屋から繋がっている蔵は、伊豆石で覆われた内壁がとても雰囲気良く、落ち着く空間でした。取り壊すしかなかった茶室もきっと、柔らかな空間だったろうと思いを巡らせました。

改装した蔵で鈴木さん（右）に話を聞く。

過去の助成メモ

平成 16 年度の鈴木邸改修の際に、外壁や瓦等の外観部分の修繕に対して一部助成しました。

04 渡邊蔵

P9 参照

伝統を受け継ぐ職人の仕事を信じる。

稲梓の山の中にあるなまこ壁が印象的な大きな蔵。明治 35 年頃に建てられたとされ、現在のオーナー渡邊さんのお父さんが当初の家主から買い受けたそう。平成 13 年になまこ壁は補修され、明治時代に建てられた蔵とは思えないほど今でも立派な佇まい。蔵を保存する大変さをにじませる渡邊さんは今後の担い手の心配をしていました。

左 / 蔵側面のなまこ壁。 中 / 蔵２階の様子。居住できるようになっている。右 / 蔵２階の窓。六角形のガラス戸の意匠が特徴的。

過去の助成メモ

蔵の老朽化により、平成 13 年度に外壁のなまこ壁や漆喰の塗替え、瓦の補強をしました。

１階は農業用資材などの倉庫として使わている。

母屋の縁側で渡邊さん（右）に話を聞く。

横川地区を車で走ると、遠くからでも目に入る渡邊蔵。近づくとその大きさと重量感に圧倒されます。六角形のガラスが規則正しく並んでいる 2 階の窓は、特徴的で、すりガラスも相まってとてもきれいでした。

小川が考える古民家活用のポイント②

- ☑劣化したり、必要のない部分は撤去することも大事。
- ☑自分でできない特殊な補修（なまこ壁等）は職人を起用する。
- ☑蛍光灯ではなく、電球色の光源を使用すると空間が活きる。
- ☑不便は当たり前だと割り切ることも重要。
- ☑無理をせずに古民家の暮らしに慣れる。